

メールマガジン (2011年11月号 Vol.12)

(発行所) (株)エルエルアイ出版

〒103-0004 東京都中央区東日本橋2-27-4 靴下会館7階

TEL 03-3868-0738 FAX 03-5809-3650

<http://www.lli-publishin g.com/>



白さで引き立つ白樺の床

芸術の秋をいろどる催しの一つとして「建築、アートがつくりだす新しい環境―これからの「感じ」が10月29日から東京都現代美術館(MOT 東京都江東区)で開催されている。現代アート、デザイン、建築、エンジニアなどの異なる表現ジャンルや専門領域が出会うことで新しいアートの可

能性を提示することを目的としている。1Fフロアの床材(486㎡)は**テツヤ・ジャパン**(神戸市)が提供。本誌3月号でも紹介したロシア白樺耐水合板だ。造作材用途が中心だが、今年は展示作品で映えることから国際的な展覧会で採用したいという設計事務所からの依頼が増えている。

寒冷地実験住宅を開始

公益財団法人トステム建材産業

振興財団は、北海道広尾郡大樹町に、「環境技術研究機構」を10月28日に開設した。「環境技術研究機構」とは、住宅・建材の研究を行っている大学・団体などと共同で次世代住宅の研究を推進する機構である。中心となる研究施設は「メモメドウズ」(Menu Meadows)。約5万6000坪の牧場跡地を活用。大樹町芽武(め

む)という地名にちなんでいる。そのシンボリック存在とも言えるのが実験住宅「メモム(Menu)」である。同機構には東京大学生産技術研究所(野城研究室)、京都大学大学院工学研究科(銚井研究室 健康生活環境創造研究分室)、プラチナ構想ネットワーク(小宮山宏会長)の3団体がすでに賛同している。トステム財団では今後、住宅・建材の研究を行って

る大学・団体に対して広く共同研究を呼びかけていく方針である。

また、午後からはシンポジウム「大樹町メモムサミット」を開催。「学生のための住宅デザインコンペティション」の公開審査会を行った。最優秀賞は「町まどう家」(小笠原正樹早稲田大学 創造理工学部 建築学科、塚田圭亮 同大学 理工学術院 創造理工学研究科 建築学専攻)審査委員長は隈研吾氏。最優秀賞では広大な牧場が広がる大樹町の自然環境を考慮した設計を高く評価した。最優秀賞は隈研吾建築都市設計事務所の設計でメモメドウズの敷地内に建設。

